

講座等からの学び

今回は、講座等でご指導・ご助言をいただいた講師の先生方から学んだことや教科会の様子を紹介したいと思います。紙面後半、井上准教授からのご指導・ご助言については、ほとんどの先生方が聞いていますが、再度、ここで思い出していただき、授業改善に生かしていただきたいと思います。

数学科授業研究会事後協議 & 西村圭一先生(東京学芸大学大学院教授)のご指導・ご助言



「子供の視点に立って、『効果があったのか』の協議は良かった。」

教科主任

- ・生徒には「証明が苦手」という意識がある。それは、根拠を明確にさせていこうとしているが、生徒の不十分な表現に対して教師側が表現を補っていることも関係しているのではないかと。テストでは表現が不十分な場合は×になる。そこはしっかり生徒に言わせて書かせていこう。
- ・(全国調査の)質問紙でも弱いと出ているが、考えを共有する場面ではタブレットの活用は効果的だったのか? 何のためにそれを使って、何を言わせようとするかを検討しておかないといけないね。

他教科のことであっても自分の教科に当てはめて考えることができますね。

本時の目標とまとめの整合性

- ・補助線の引き方が本時の目標に合っていたのか。
- ・教師の持って行きたいことがまとめに出ているのではないかと。

本時の「問題」への入り方

- ・前時の考えを残したまま提示して問題にしていくか、前時と違うことを提示して新しい問題にするか、問題への入り方、見せ方を工夫する。



タブレットの活用 ~子供の思考にどのような影響を与えるか~

- ・ICTは共有の仕方によっては効果的なもの。しかし、しんどい生徒にとっては見るもの(黒板、教科書、ノート、タブレット)が増えて負担が増えることも意識しておく。
- ・ICTではそこに書かれてあることが流れていくが、黒板には考えが残っており、分からなくなっても黒板を見ると考え方が追えるという利点もある。
- ・タブレットのドライブに自分や友達の考えを残したとしても、後でそれを開けて見るかどうかとも考慮しておく。

教材研究の仕方

- ・教科書は、教科書どおりやってもらえるとある程度分かるようになっている。
- ・教科書に何が書かれてあるか意図を解釈する。

社会科授業づくり講座教材研究会 井上昌善先生(愛媛大学教育学部准教授)のご指導・ご助言



令和時代の教育を通して目指される資質・能力

- ・多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる資質・能力を育成することが求められている。
- そのためには、読解力、表現力、納得解を生み出す力を育成する。(読み解くから表現できる。表現する[表現し合う]から納得解を生み出せる。)

子供が持つと予想される問い

- ・「単元を貫く問い」や「めあて」に対して、生徒はどのような問いを持つかを予め考え、単元や本時を構想する。

「指導と評価の一体化」学習評価のポイント & フィードバックのポイント

- ・学期末や学年末等の事後での評価に終わらない。評価の結果が生徒の具体的な学習改善につながるようにする。
- ・生徒は「できたことを褒められた時」「自分の力を高めるための方法(改善点)が明らかになった時」やる気になる。フィードバックは、目標に照らして、どこがよくできており、どこが改善を要するか具体的に伝える。

子供が主体的に取り組める単元づくり

- ・子供が主体的に取り組める単元づくりを実現するためには、「指導と評価の一体化」を通して自己の知的成長を実感させることが大切である。振り返りで分かったこと、できるようになったことを書かせたり、疑問や次の学習で生かしたいこと等を書かせたりすることも有効である。

*社会の単元構想について、井上先生ご自身の案や参考資料等もたくさんご提示いただきました。